

令和2年5月5日 第2号

かわら版

# 育種の波動

全国新品種育成者の会発行

## 第33回定期総会を開催

新役員を選出 会長に山下雄氏

会長代行に山田茂美氏

2月13日全国新品種育成者の会の第33回定期総会が東京霞が関の法曹会館で開催されました。

総会では、令和元年度の事業報告と決算報告が承認された後、役員改選が行われ、相談役に退いた金澤会長の後任に顧問であった山下雄氏が新会長、副会長の山田茂美氏が会長代行に就き、山下文吾、林慎悟の両氏が副会長に、瀬戸啓一郎氏が幹事（書記理事）に就任する等、新役員が選出され、新入会者の増員、新品種のPR、新技術の普及啓発等を図る事業計画が承認されました。

その後表彰に移り、ブドウの育種・普及に取り組んだ原田員男さん(山梨県笛吹市)に育種賞、茶の育種と産地の活性化に取り組んだ水野昭南さん(静岡県島田市)とテコマ等南アメリカの原生植物の育成に取り組んだ小林泰生さん(福岡県糟屋郡宇美町)に育種功労賞が授与され、原田さんと水野さん(小林さんは授賞式を欠席)から、自身の紹介を兼ねた挨拶が行われました。



閉会后、キリンビール社に花の育種部門を立ち上げた食品産業センターの竹下大学氏が「育種にもっと光を」のテーマで講演されました。

### 総会で選出された新役員

会長 山下 雄  
会長代行 山田 茂美



山下会長



山田会長代行

副会長 山下文吾  
副会長 林 慎悟(青果物部長兼)  
幹事(書記理事) 瀬戸啓一郎(花き・花木部長兼)



山下副会長



林副会長



瀬戸幹事

会計  
理事  
理事  
理事  
監事  
監事  
青果物副部長

川村一徳  
大内 幸雄  
関口 政行  
萩原 和弘  
小原 誠(新)  
長谷川 康平(新)  
角田 ミサ子(新)  
荒井 芳夫(新)  
安藤 淳夫  
金澤 美浩

相談役

顧問 尾崎 道(農林水産省知的財産課長)  
三野 耕治(元農林水産省種苗課長)  
佐藤 和規(ビスタ・エフ・エフ・インク代表)  
福井 博一(岐阜大学理事・副学長)

事務局 岩澤 弘道

### 山下新会長挨拶

全国新品種育成者の会のみなさま。2020年4月より新たな会長を拝命いたしました山下雄(ヤマシタユウ)と申します。現在48歳の歳男になります。新型コロナウィルスによって国内は一変してしまいました。まずは会員、ご家族、ご関係者の方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。昭和60年から続く本会の個人育種家の育種権保護と育成という目的と精神を大切に、新たな時代への橋渡し役として微力ながらお役に立てれば幸いです。何卒今後ともよろしく願い申し上げます。

### ホームページをリニューアル

この度、会のホームページが一新されました。育種関係者の皆さん等に当会をわかりやすく紹介するため、写真を多く配置し、会の目的や活動をコンパクトにまとめ、会の理解を深めるためのQ&Aのページや会員が入会して良かったことを語るページを設ける等、カラフルで親しみやすいものにリニューアルしましたので、ぜひご利用ください。

### 今年度の主要行事等を決定

平成2年度初の役員会を開催

今年度第1回目の役員会が4月7日、始めて

ズーム機能を使ったWEB会議として開催されました。山下新会長の挨拶に続き、6月下旬に講演会を開催し、10月上旬に福島、茨城地域で現地視察研修を行うこと等、今年度の主要な行事日程が話し合われました。

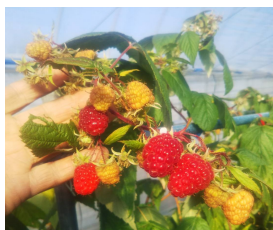
## ■トピックス■

### ＝育成した茶、紫トウモロコシを混入したパンの開発に島田市から補助金＝

島田市の水野昭南さんは、2月の総会で育種功労賞を受賞されましたが、2月18日に地元市役所で市長と会い、今回の受賞報告と現在試作中の紫トウモロコシと茶の生葉を混入したパンの開発について紹介し、その模様は静岡新聞と市の広報紙に掲載されました。パンに加工するのは、育成した紫トウモロコシがアントシアンの成分が高く、また茶「満点の輝き」は、生葉で食べても味が良くアミノ酸が多く含まれることから、新しい試みとして取り組んでいるとのこと。この度、そのパンの開発に島田市から補助金の支給が決定したということです。

### ＝地域の風土に合ったラズベリー品種の育成をめざして＝

福島県で矢祭園芸代表を務める当会相談役の金澤美浩さんは、日本では例のないラズベリーの品種育成に挑戦し、有力3品種の育成にこぎつけました。ラズベリーの品種育成を始めたのは、15年前。果物の輸入業者から、日本に合う品種の育成を頼まれたのがきっかけでした。



カーネーションやシクラメンの育種家だった金澤さんがラズベリーののりに取り組んだのは、花での経験から交配を3世代繰り返せば地域の気候になじんだ品種ができると直感し、年間1,000トンの輸入に対し、国内生産はわずか10トンのラズベリーのオリジナル品種を作れば独占販売もできるとの思いからでした。全国から20種類のラズベリー苗を集めて種を取り出し、休眠打破で発芽させた苗を露地植えで育てて実をつかせるやり方を3世代繰り返しました。そのなか

ら地域に合ったラズベリーに仕上げ、3品種に絞り込むことができました。それぞれ生食用、ピューレやジャム加工用、冷凍用に適し、今年品種登録申請を予定しています。福島の地ビール（ラズベリービール）、ドレッシング、ジャム用等の生産依頼が来ており、本年度の収穫目標は5トンです。既に地域おこし隊として2人が定住して栽培に取り組んでいます。地域の特産物として、県や地域の振興に役立てればと期待しています。

### ＝被災地に花を贈るNPOの理事長として釜石市にサギソウの球根を寄贈＝

2月に当会に入会された秋田県横手市の渡部泰蔵さんは、現在85歳ですが、平成28年及び30年にサギソウ2品種を登録申請され、今もバラの育種に取り組んでいます。

渡部さんは東日本大震災の被害者に心を痛み、仮設住宅に住む被災者に花を贈ろうと、元市の職員であったことから市役所職員とOB、山野草の会員等の賛同を得て、平成25年に被災地の花を贈るNPOを立ち上げられました。理事長として育種したサギソウ10球を鉢に植え、25年から岩手県釜石の被災者に寄贈してきました。サギソウの名が翼を広げたようなサギの姿から名付けられたように、「翼を広げてに復興に飛び立ってほしい」との願いで、渡部さんは会員に球根を渡して増殖を頼み、27年には1500鉢を寄贈し、「今後は、釜石市以外にも寄贈したい。」と話されています。

### ⇒伝言板⇐

▶「育種の波動」第2号は、いかがでしたか。

▶この令和2年度は山下新会長、山田会長代行を迎え、新出発の年となりました。役員は、今まで以上に会員に寄り添った活動に励む決意ですが、新聞の発行はまさにその活動の一環ですので、皆さんに喜んでもらえるよう努めたいと思っています。▶育種家の皆さんの取り組みをできるだけ掲載したいと第1号の伝言板で述べたように、2号では3人のトピックスを紹介しました。今後も多く取り組み等を紹介したいので、情報や写真を事務局に送っていただけると幸いです。事務局より 岩澤 090-4059-1096